

令和5年度第1回白河市総合教育会議

議事録

1 日 程 令和6年1月16日(火)

2 場 所 市役所3階 第2応接室

3 開 会 午後1時30分

4 出席者

(1) 構成員

職名		氏名
市 長		鈴木 和夫
教育委員会	教 育 長	芳賀 祐司
	教育長職務代理者	高橋 顕
	委 員	北條 睦子
	委 員	沼田 鮎美
	委 員	瀧澤 学

(2) 市職員

職名	氏名
市長公室長	井上 賢二
市長公室企画政策課長	深町 洋介
市長公室企画政策課企画政策係長	星 大介
市長公室企画政策課企画政策係副主査	坂本 美咲
教育委員会事務局理事兼教育部長	佐藤 伸
教育委員会事務局教育総務課長	藤井 浩司
教育委員会事務局教育総務課課長補佐兼総務係長	近藤 卓
教育委員会事務局学校教育課長	仁科 英俊
教育委員会事務局学校教育課指導係指導主事	荒井 智

5 議 事

(1) GIGA スクールの現状について

(2) その他

6 閉 会 午後3時

1. 開会

- 事務局（司会）令和5年度第1回白河市総合教育会議を開催する。
原則通り会議を公開とし、傍聴を許可する。

2. 議事（1）GIGA スクールの現状について

- 事務局（司会）白河市総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により会議の議長は市長とする。

- 市長 議事（1）の「GIGA スクールの現状」について、事務局より説明を求めます。

- 事務局 1人1台のタブレット端末を使った GIGA スクール構想については、以前、先行モデルとして小野田小学校の授業の様子を見ていただきましたが、本格導入されて以降の各学校の取り組みをご説明したいと思います。

資料1は「1人1台端末」の環境と、そうでない場合について、一斉学習、個別学習、協働学習に分けた事例が記載されており、「1人1台端末」の環境により、どのように学習が深化、転換していくかを示しています。

では、一斉学習と個別学習、協働学習の3点について、資料2により、メリットを中心に話をさせていただきます。

一つ目は「効率的な一斉学習の実現」です。一般的に、一人の教員が大勢の子どもに対して授業を行います。こうした一斉学習の際にタブレットを活用することで、子どもの興味や関心を高めることが可能です。

二つ目は「子どもの主体的な学習環境の実現（個別学習）」です。子どもと教員や子ども同士でコミュニケーションを取る際に個別学習が必要になるケースがありますが、タブレットの活用により、効率的な調べ学習や、興味関心に合わせた自主的な学習の後押しが可能になります。

その他にも、テストや宿題といった教材の共有、授業の振り返りやアンケート調査の実施もタブレットを活用することで効率的に行うことができます。子どもたち一人一人にあった学習環境の実現が可能となります。

三つ目は「協働学習を活性化させる」ことです。協働学習とはグループ活動が代表的です。タブレットを活用することで、より活発な意見交換やアイデア創出が期待でき、協働性や表現力、思考力、判断力、コミュニケーション能力など様々な能力を養う効果が期待できます。

それぞれの具体的な事例を紹介したいと思います。

まずは、効率的な一斉学習の実現についてです。タブレットで資料や動画を配布することで、効率的な一斉学習が実現できます。資料左の写真は、中学校の国語の授業の様子です。方言や共通語の定義、対比について大型スクリーン

に映しています。右の写真は、体育で使うバランスボールの使い方を見ている様子で、動画で確認することで学習の見通しを持つことができます。このように、大型スクリーンで資料を提示したり、動画を見せたりすることで、子どもたちがイメージしやすくなります。また、いつでも見直しでき、復習に活用することも可能になります。

次は、子どもの主体的な学習環境の実現のための個別学習についてです。個別学習は、個に応じた学習や調査活動、表現・制作、家庭学習などが考えられます。学校には、事情によって学校に登校しにくくなってしまった子、他の子と関わるのが苦手な子、授業についていけない子など、様々な生徒が在籍しています。左の写真は、教室に入れない子が図書室で教室の授業を Zoom で見て学習を進めている様子です。右の写真は、タブレットで教師と子どもが教材をやり取りし、採点とフィードバックまで行った例です。教材を解いて、採点をしてまた解き直す、ということを行っています。

次ページ左の写真は、特別支援学級でタブレットを使って問題を解いている様子です。間違えた問題に対して、例えば3年生の問題を間違えたとしたら、2年生の同じような問題に戻ることを、今までは手で問題を作っていましたが、瞬時に復習できるというもので、自分のペースで少しずつ問題を解いている様子も見られます。右の写真は、休んでいる子どもに、授業の様子を配信している写真になります。コロナ禍で、濃厚接触者になり学校に行けないという状況もありました。学校の様子を配信して授業を受けることは、学習的な保証ということもあると思います。タブレットを活用することで、一人一人に適した学習環境が整理できます。

次ページ左の写真は、中学校の先生が課題を送ったものです。中学校は教科担任制で、日によっては顔を合わせないこともありますが、タブレットを通して先生とのやり取りが上手くいくという面もあります。右の写真は、数学の模範解答になりますが、事前に送っておくことで、その日のうちに自分の弱点を改善することができるようになります。持ち帰って学習することが可能なので、調べ物や授業で配布された資料の復習など、家庭学習の活性化も期待できます。

最後は、協働学習の活性化についてです。発表や話し合い、協働での意見整理、協働制作、学校の壁を越えた学習などが考えられます。

まずは、友達との協働学習の実現です。協働学習とは、グループごとに与えられた一つのテーマに生徒同士が向き合い、協力しながら課題を解決するものです。多くの仲間と意見交換をしながら課題をクリアすることで、より深い学びへと繋がります。紙でも同じようなことはできますが、最後の仕上げが一瞬でできます。これまでは、1人が書いている間は順番を待つだけでしたが、一度で一つの成果物ができあがるというメリットがあります。

次は、意見・アイデアを共有した制作活動です。タブレットを活用するこ

とで、自宅や別の教室でも、意見やアイデアを共有し、制作活動を行うことができます。この写真は、文化祭実行委員と担当教師が、文化祭のオープニング動画を作成している写真です。生徒それぞれが動画を作成し、共有ファイルに保存、その動画を結びつけオープニング動画を完成させました。全員が集らなくても、このような動画を作成することができることも、タブレットの良さかと思えます。

以上、タブレット活用によるメリット、GIGA スクールの成果を説明しましたが、その一方で課題もあります。

一つ目は、AIドリルやその他アプリが数多くある中で、どのようなアプリを活用するかを見極めていくことです。

二つ目は、書く力の低下です。タブレットでも画面上に書くことはできますが、指で触れてページをめくったり、選択するようになっていて、実際にノートに書くという力が弱ってきているような反省もあります。それに加え、タブレットから情報が入ってきますが、実際に肌で感じる、五感で感じるという部分については課題が見えてきたかと思えます。

三つ目は、生成AIの問題です。情報活用能力ということで、どれが正しいか見極める力も必要になります。生成AIの問題も複雑になってきて、それに対する教育が追いつくかということも心配なところです。

GIGAスクール構想の取組みについてご紹介しましたが、子どもたちが情報化社会を生きていくにあたり、今後、どのように活用していくべきかについて議論いただきたいと思えますので、よろしくお願いします。

○市長 事務局から、課題についても話がございましたが、学校におけるタブレット活用のメリットや課題についてご意見があればお願いします。

○高橋委員 先日、普段の授業を見せてもらう機会がありました。年配の先生方もスムーズに機器を使いこなしている姿を見て、どうして使いこなすことができるようになったのかお聞きしたところ、「機器整備が非常に進んでいて、使いやすいから簡単にできる。これまでは、教室にプロジェクターやパソコンを運んだり、事前にいろいろな準備をしなければならなかったが、今はそういった準備が必要ない。環境が整備されていると効率化が図れるのではないか」と言っていました。

環境を整えることが授業の変化に繋がり、学習の取り組みに繋がったいい例だと思います。市で予算を付けていただき、機器整備などの面で配慮してもらった方がいいかと思えます。

○沼田委員 私としては、まだ活用しきれていないのではないかという実感の

方が大きいです。タブレットやパソコンを使っている子と使っていない子では、情報格差が大きくなってきているような気がします。その差を学校で埋めていかないと、ますます格差が広がってしまうのではないかと思います。ただ、今まで触れなかった子も触れるようになったことについてはとても良かったと思います。

○**瀧澤委員** 私くらいの年齢になると、タブレットも GIGA スクール構想も、最初は違和感を覚えたのですが、説明を聞いて、今後、このように進んでいくのだろう、今は使い始めの段階なのだろうと感じました。

先日、孫と食事に行った時に、まだ3、4歳の子がスマートフォンを使いこなしていました。そういう子どもたちがこれから育って行って、タブレットは勿論、いろいろなツール、アプリを使いながら、進化していくのだろうと感じます。今はスタート段階なのかな、と見ています。

○**北條委員** 私は、小野田小学校に参観に行き、朝自習の授業を見せていただきました。びっくりしたのは、漢字の書き順、とめ、はね、はらいをタブレットが判断していたことです。児童がとめ、はね、はらいをしないと、タブレットが指摘してくれます。

また、英単語を大文字から書き始める子もいましたが、小文字で書き始めるということをタブレットが指摘していました。小文字と大文字の違いで減点されてしまい、1点、2点で合否が分かれケースもあると思うので、小、中学生の時にきちんと身に付けておいた方がいいと思いました。

また、自分の意見を言えない子がたくさんいると思います。しかし、タブレットがあると、自分の意見や考え方を発信しやすくなり、友達が「この考えいいね」と同調してくれるので、その子の自信にも繋がります。自分も子どもの時、意見を言えなかったという経験がありましたので、私はそれが一番良かったなと思いました。

○**教育長** GIGA スクール構想がコロナ禍の中で進みましたが、私がとても効果的だと思ったことは、臨時休業の時にオンラインで授業ができることです。学校に来ることができない子にオンラインで授業を配信するという例がありました。そうした中でも、オンラインで授業ができる。これは GIGA スクールのとてもいい点だと思います。オンラインでできるということは、地方にいながら、現地に来ていただかなくても大きい企業の方のお話をみんなで聞くこともできる。これは、今までなかったことかなと思っています。

もう一つは、一人一人にタブレットがあるので、AIドリルを使って自分の能力に合った学習ができることです。問題集だけだと、わからないままで終わ

ってしてしまいましたが、AIドリルでは、わからなかった問題は、それを補充、復習するような問題が出てきて学習することもできる。

オンラインでの授業とタブレットでの自学、この二つがGIGAスクール構想の大きな効果なのではないかと思います。

しかし、それでは学校に集まって勉強することの役割とは何か、ということになってしまいます。学校の本来の役割は何なのかということはきちんと見直していかなければならないと思います。

○市長 教育長が話したように、たとえば学校に行けない、教室に行きたくないという子が別室で授業ができるということもある。

北條委員がおっしゃったように、自分で発言したくてもできないような子どもが、タブレットでは発言できるということもある。発言するというよりは、誰かが発言したことについて同感するというのでしょうか。twitterで「いいね」をするような、そういうことですかね。

○北條委員 はい。例えば私が参観した算数の授業で、生徒は自分の考えを持っているのですが、他の生徒に「こういう考えもあるんだ」、「なるほど」と同調するということがありました。

○市長 自分の意見が多数意見ではなくても、誰かが少数意見を言ってくれば、自分の意見と同じような人がいるということ、タブレットを使えば比較的共感できるということなのではないでしょうか。

また、沼田委員がおっしゃったように、デジタル格差は今後の課題の一つだと思います。インターネット環境が整っている家庭で育った子とそうではない子とでは差があることは間違いない。例えば、たくさん本を買い与えてもらっている子と、全く本に触れてこなかった子も全く違います。なので、これからなるべくデジタル格差をなくそうという努力が必要だと思います。

ほかにもメリットはあるのでしょうか。

○高橋委員 紙で行うテストは、書いてある問題を見て解答しますが、これからはそれだけにとどまらず、動画を使って、人と人が会話している様子、自然の中での体験の様子などを見て、その中から情報をどう整理するかというような問題もできるようになるのかなと思います。そしてそれは、生活に近い形になってくるのではないかと思います。

学習が我々の実感や家庭生活に結びつくものであって欲しいという願いはこれまでもずっと持っていましたが、一方で、学校でやっている内容は実生活と切り離されているとも感じていました。今日の授業は、実生活に則していま

すねと評価をいただいたりすることもあります。そう言われるくらいですから、なかなか実生活に結びつけることが難しい。そして、コンピューターを使うことで、繋がりが作りやすくなっていくのではないかと思います。

ただ、問題点はあると思います。自然の中にいる時には、五感を使っているいろいろな判断をしています。聴覚と視覚だけで物事を判断してあと三つの感覚を使わないのでは、得られる情報が偏ってしまうので、その調整も今後課題になるのかもしれませんが。しかし、身近な問題を子どもに考えさせるきっかけにはなる気がします。そう期待したいです。

○市長 事務局からほかに、前のアナログ的な授業と比べて、子どもが成長する上でより効果的な点は何かありますか。

○事務局 今までは、自分の考えを書きなさいという時、生徒がノートに書いたものを先生を選び、みんなに見せるために、大きな紙に書いて黒板に貼っていたのですが、今は書いたものをタブレットで先生に送ると、先生のところに集約され、それをまとめて見ることもできます。さらに、〇〇さんはどう考えているのかな、となると、〇〇さんの考えを見て、自分と一緒に考えだということもわかる。席を移動したり、書いたりしなくても、一人一人の意見をきちんと授業に反映できることに加え、時間的にも短縮できます。

○市長 間違いなく効率的ですよね。今まで3時間でやっていたことを、2時間でできるというのは。我々がスマートフォンをどれだけ使いこなせているかわかりませんが、十分すぎるほど情報があります。限りなく便利ですから、どんどん進化すると思います。いい方向に使えばそれでいいと思います。ただ、問題は課題も同時に考えていかななくてはいけないということです。

否定的な問題ではなく、より良くするための課題ということを考えて時にいかがでしょうか。

○北條委員 やはりデジタルもアナログもそれぞれ良し悪しあります。使う人の問題と言いますか、書く力の低下でしたら、きちんとタブレットで書き方を練習して、従来通りにノートにきちんと書かせる。

体験不足に関しては、例えば小野田小学校では、生徒が農作物を自分で作り、地域の人を招待して収穫祭を行いました。その時にも、タブレットを使って作物の作り方や成長段階を学習していました。アナログとデジタルの融合と言いますか、体験不足にはそういった使い方をすればよいと思います。

また、授業を見せていただいた若い先生はタブレットを使いこなしていましたが、年配の先生はなかなか大変だということでした。ICT支援員の方がい

ればと言っていたので、地域の人を巻き込んではいかがですかというお話しをしました。地域の人にもできる人はいると思います。ただ、地域の人からすると、学校から発信してくれないと学校に足を運ぶことはないのです、学校だよりやホームページなどで発信したらいかがですかというお話しをしました。

○**瀧澤委員** 書く力は間違いなく低下していくと思いますので、どう対応するかがこれからの課題だと思います。ただ、書く力は低下しても、GIGA スクール構想は進んでいくと思います。

また、これからは検索力が大事になり、暗記力も低下するのだろうと思います。ネットで調べれば、ある程度答えが出てきてしまう。そういった場合に暗記力も相当下がると思います。いろいろな勉強をしようとして自分でやってみたことがあるのですが、プログラミングも覚える必要はなく、検索する能力があればいい。どうやって検索するかという部分がこれからはウェイトを占めるのかなと思いました。

そして、検索する時に一文字間違っている、パソコンがこうではないですかと尋ねてくる。一文字間違っても、なんでも調べることはできるということですね。あとは、その調べたことに対して、自分がどう判断するか、どういう良識を持つか、なんでも正しければいいでは困るという気持ちはあります。

○**市長** 便利であるがゆえに陥る穴というものもあるでしょう。今問題に挙がっていますが、生成AIが本当に正しいかどうかということにはわからない。良識とおっしゃったけれど、良識や教養が重要になると思います。生成AIは、誰かの論文をそのまま学習してしまう。例えばノーベル賞を受賞した方の論文を持ってくれば、それで信じてしまうわけです。果たしてそれが本当のことかわからない。生成AIは考えない。今までの膨大な資料を取り込んで、整理して出力する。

私は基本的にパソコンを使わず手でものを書きます。書くときに思わず漢字が出てこなくなってしまう、スマートフォンで調べますが、こんなに字が書けないのか、力が落ちたなと思います。読めるけれど書けない。別に書けなくても困らないけれど、漢字にはなぜこういう形になったのか、必ず意味があります。由来を知っていると、漢字一文字から意味がわかる。今ですらそういう力はなくなっている。源氏物語も、読んでも奥深い部分はわからなくなってしまうでしょう。表面上はわかるかもしれないけれど言葉の意味がわからない。多分そうなるような気がします。

○**沼田委員** 今の子どもたちと言うか、田舎の課題だと思っているのですが、分からないからやらない、田舎だから必要ないという考えが、まだ根強く残って

いると思います。情報機器、AIドリル、その他アプリの導入など。しかし、これをやっていかないと、今の子どもたちが大きくなって社会を支えていかなければならないとなった時に、置いていかれてしまう。

以前は、東京の人が移住してきてリモートで仕事をしてくれたら、地域が潤うと考えていました。しかし、最近は在宅ワークが主流になってきて、田舎にいても都会の賃金をもらうことができます。都会に出なくても、ここで育った人たちがここで仕事をして、都会からの収入を得られるようになれば、地域全体が潤っていくのではないかと考えています。そうなった時に、小さい頃から生成AIやICTツールを使いこなす力というのはとても重要だと思います。なので、学校でも積極的に取り入れていった方がいいと思っています。

○市長 おそらくそれは、学習の標準化ですよね。たとえば昔だったら、東京の難関高校の授業にはとてもついていけないだろうと思っていました。デジタル化が進むとおそらくその差が縮まります。北海道の稚内にいようと、石垣島にいようと、差がなくなってくるかもしれない。だから、デジタル化の持つ意味は大いにあると思います。

その一方で、我々みんなが物知りになってくる。聞いたことのない言葉でもネットで調べれば何でも知っている、パッと答えられる。でもそれはその場限りです。問題は、その裏にあるものまで見抜く力があるかだと思います。おそらく、知識は標準装備になってくる。新聞を見れば載っているし、ネットを見れば出てくる。では、なぜそうなったのだろうか、とまで考える力があるかどうか。問題はそこなのではないでしょうか。賢いということと知っているということはイコールではない。

○高橋委員 子どもたちが何かを調べようと思った時、調べる拠り所が本当に正しいかどうかを考えることがとても大事だと思います。新聞や書籍は誰が書いたのか会社や記者の名前が書いてあり、責任者がわかりますが、ネットでは誰が書いた記事なのか書いてあるわけではない。自分が調べたものの拠り所が正しいかどうかを考える力がとても大切だと思います。

一人で考えることが難しいとすれば、「自分はこう調べたけれど、あなたは どう思う？」と問いかける、アナログ的なコミュニケーションスキルが今後重要になるのではないかと。そうでないと、闇バイトなどお金がもらえるからなんでもやります、なんて世界に引っ張り込まれてしまうのではないかと。人に話して、そんなに都合のいい話があるわけないと伝えてもらえれば立ち止まれると思うので、真偽を疑うことが大切ではないでしょうか。

ただ、真偽を疑うということは、学習の中でやるのは難しいと思います。反対意見を言うことは、非常に大切だと言われていますが、それが上手く成立す

るかというとなかなか難しい。学級の中でも発言力がある子とない子がいて、反対意見を言いにくいということもあります。しかし、先生方の努力だったり、子どもたちを鍛える指導をしたりするしかないと思います。

結果としては、アナログな部分が重要になるような気がします。

○**教育長** 先ほど、タブレットがあって便利だと言っていました、便利という言葉にまともな感じがします。バーチャルな世界でなんでも体験できますが、子どもたちにとって本当にその体験だけでいいのか。それを見せればおそらく、学習の内容も表面的にはわかるかもしれないけれど、体で、五感で感じるということが少なくなってしまうと怖いなと思います。

また、生成AIは、さらに広がっていきそうな気がします。AIを使えばすぐに答えが出ます。そうすると当然、答えを出す力よりも、考える力や調べる力、自分で納得する力が必要になるだろうし、それを大切にしなければならない。高橋委員がおっしゃったように、その答えが正しいかどうか判断するには、今よりもっと教養がないと見抜けなくなってしまう。能登半島地震の時に、東日本大震災の津波の映像を使って、能登半島に津波が来たと言う人がいた。それをフェイクだと見抜くにはしっかり見ないとダメですよ。それと同じで、やはりそれが本当に正しいかどうかを見抜くためには、きちんとした教養を身につけていないと騙されてしまうのではないかと思います。

チャットGPTなどは、質問を言葉や文章で入力すると、その質問に回答してくれますが、言葉を選んで質問しないと良い答えが出てこない。ということは、言葉をよく知らないダメですよ。ですので、昔からある学習ですが、本を読むことも大事にしていかなないと、デジタルばかりだと困ってしまう。

今の子どもたちが大人になった時に必要なのは、答えを出す力ではなく、なぜそうなっているか理由を考えること、そして、発想力や想像力など未来に向かって考える力なのではないか。その力をどう育てるかについて、今は答えられないが、生成AIで答えがすぐに出ることを考えると、答えを出す力ではない力が必要なのかなと思います。

○**市長** 高橋委員がおっしゃったように、AIやチャットGPTは、身体的なものが伴わない。それが一つ大きな欠点ですね。頭の中で完結してしまう。人にはやはり、歩いたり走ったり、川で水を浴びたりする経験が非常に大切です。その経験をしなくても物事がわかってしまうことが問題の一つ。

それから、人間とは何なのかということ、いわゆるデカルトの「我思うゆえに我あり」です。要するに、その本質を考えるということ、これが、人間が人間たる所以だと思います。だから、人のものを書き写すことも、誰かが言ったことをオウム返しすることもとても簡単ですが、その人のことをどれだけわか

っているかですよね。リンカーンが「人民の人民による人民のための政治」と言ったのを言葉だけとらえても全く意味がないわけです。南北戦争が起きている悲惨な政治状況の中で彼のあの言葉があった。その言葉には時代背景や色があるわけです。ところが、生成AIの言葉には色がありません。誰かが過去に使った言葉をそのまま持ってくるだけ。あの時代にリンカーンが言った言葉は、民主主義の基本で、現代の我々は当たり前を感じてしまっていますが、当時は感動したわけです。

昔は、ある学者がこう言ったら、他の学者が反論して、それにまた反論するという学者同士の論争があった。今はそういう論争がほとんどない。論争が行われることで議論がより深くなっていくわけです。そして、どちらが正しいという答えはない。ものの考え方だから、答えがない、わからないというのが一番正解かもしれない。世の中、答えを出そうと思うから出さざるを得ない。でも、それは正しいのだろうかと思うこと。ただ、今と10年前とでは状況が違いますよね。だから、今から10年前の判断をどうこう言っても仕方ない。今置かれている状況の中で、この判断でいいかどうかということを私は自問自答します。おそらく我々は、本質を考えるということが大事なのです。

フェイクニュースで本当らしい大きな嘘をつかれたら、よっぽど真贋を見抜く力がなければ、みんな引っ張られます。小さい嘘は見抜けるけれど、大きな本当らしい嘘は見抜けない。ヒトラーが出てきた時にドイツ国民は賛成しました。それは、大変なインフレや失業率、現政府に対する大きな不満という政治状況があったからです。ヒトラーが彗星のごとく出てきて、「失業者をなくします」と言った時に、わっと飛びついた。ヒトラーは独裁しか考えていない。それが民主主義を装いながら、非常に巧妙に政権を取っていった。

しかし、それをいち早く見抜いたのはチャーチルです。当時のイギリス首相のチェンバレンは、ヒトラーと一時融和する。チャーチルは、なぜこんなに危ない人物と融和するのかと言っていた。では、なぜヒトラーの悪を見抜けたのか。彼は歴史を徹底的に勉強していました。するとああいう類の人物はたいていこうだと、人物の本質を見られるようになるわけです。だから、ヒトラーは危険人物だと見抜けた。我々は平凡な人間だから、おそらく大きな嘘をつかれたらみんなそっちに流れていきます。生成AIなどは、見せかけは完全なものを作ってしまう。巧妙な嘘をつかれたら、本当に持って行かれてしまうかもしれない。そうした力はどのように身に付けるかという、これは何かおかしい、という感覚です。この人は良いことを言っているけれど胡散臭いな、と感じることがあるでしょう。もっともらしいことを言って、学識があると思っても、なんとなくその人の表情や雰囲気を見るとどうなのかと思う。どちらが正しいかという、その感覚の方が正しい。直感力ですね。これは教えられないですよ。教えられないけれど、教える。人間に大切なのは直感力なんです。

たとえば、緊急の時に右と左のどちらに行くのか判断するのに理屈を考えないですよね。直感です。これは極論ですが、極論も起こる。今回の能登半島地震もそうですが、ああいうときにAIなんて役に立ちますか。災害や戦争という極論の話をしてもし方がないかもしれないけれど、今、珠洲市、輪島市が置かれている状況、そういう時はやはり、人間の本来の物が出てくる。だから、AIは悪い方に使われれば、どこまでも悪くなる。いや、おそらく悪い面の方が強まってくる。働き方も、これによっていい方に変わってくるけれど、それ以上に悪い方に使われる可能性が強い。

だから、先生方にお願いしたいのは、極論を言っても仕方がないけれど、人間が極限に置かれたときにどういう反応をするかということも考えておいた方がいいということです。

AIは五感を持っていない。今までのものを膨大に学習して、今まであったことに対しては答えを出せる。しかし、未来のことは出せない。未来の答えを出せるのは人間しかいない。課題設定能力といってもいいかもしれない。先生方が問題を作る、その力です。何が問題かという課題設定能力がきちんとあれば、それが難しくてもその答えは出ているわけです。そういうふうには私は思う。AIがいずれ人間の力を超えるだろうと言う学者もいますが、そういうことはないでしょう。知識においては超えるかもしれないけれど。

ただ、大きな曲がり角に来ていることだけは間違いないので、その時に子どもたちがどう生き抜くかということをお問われているのだと思います。

これは道具に過ぎないということを考えればいい。馬から耕運機に、自転車からバイクになったことと同じなのかもしれない。今まで歩いて1時間かかったところを10分で行く。浮いた50分はどう使うのかということです。あまりいい方に使っていないでしょう。

何事にも光があれば影がある。影の部分を極力少なくして、光の部分を大きくする。便利だけれど、これに潜む大きな欠点もあるということはぜひとも覚えておいていただきたいし、感性、感覚、直感というものも馬鹿にしてはいけない。これは我々が何万年も生きてきた中で育んできたものですから。人間のDNAに入っているわけですよね。そういう直感力は、どこでどう育まれるかわからないけれど、それは、子どもの山の中の遊びでできるのでしょう。

3. 閉会

○事務局（司会）

令和5年度第1回白河市総合教育会議を閉会。